

科目名	社会人基礎力講座 I (GCB I)						
科目名(英)	Groval Citizen Basic I						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	本田恵子・熊丸真理		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 1年						
授業概要	医療従事者として基礎となる、感謝心と思いやりの心を学ぶ。 医療従事者としての正しい言葉使い、社会人としてのマナーを学び社会人基礎力向上を目標とする。 また医療人としてチーム医療を取るためのコミュニケーション能力を獲得することを目的とする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		グローバル・シティズンとは何かを理解し、自分が恵まれた環境にあることに感謝することができる。	
	○			○		仲間を大切に、共同(協働)の気持ちを持つことの重要性を考え、気づくことができる。	
	○					医療従事者として、正しいことば遣いを理解することができる。	
		○		○		医療従事者として、立ち振舞の基本と応用を実践することができる。	
○					チーム医療の中でより良いコミュニケーションを取るためのマナーを理解できる。		
テキスト・教材 参考図書	1. GCB I テキスト 2. 教科書:実社会で求められるビジネスマナー(専門教育出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グローバル・シティズンを目指す・「協働」の態度を持った学生生活				教科書にて復習	
	2	よりよい人間関係の構築に向けてーモラル・ルール・マナーの重要性ー				教科書にて復習	
	3	マナーの本質-相手に良い印象を与える・相手に敬意を表する-				教科書にて復習	
	4	グローバル・シティズンとしての日常				教科書にて復習	
	5	グローバル・シティズンとしての目標				教科書にて復習	
	6	接遇の五原則・自己紹介				教科書にて復習	
	7	言葉遣い				教科書にて復習	
	8	言葉遣い				教科書にて復習	
	9	言葉遣い				教科書にて復習	
	10	立ち居振る舞いの基本と応用				教科書にて復習	
	11	電話応対				教科書にて復習	
	12	電話応対				教科書にて復習	
	13	来客応対				教科書にて復習	
	14	手紙の書き方・冠婚葬祭				教科書にて復習	
	15	マナー一般				教科書にて復習	
評価方法	成績処理方法: 1.レポート 40(%) 2.定期試験 60(%) 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				60%
小テスト	◎	○		◎		40%	
履修上の注意							

科目名	情報処理						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	谷口久美子		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 1年						
授業概要	Word・Excel・PowerPointのアプリケーションソフトの基礎的な操作を学習し、レポート・発表会資料等の作成時に利活用することができる。文章の入力に関して、5分間で200字以上(3級レベル)の文字入力ができる。						
授業形式	講義: △	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○	○		キーボード入力が正確でスピーディに行えるようになる。(5分間で200字3級レベル程度以上)	
	○	○	○	○		Wordを使用してレポートや論文が作成できるようになる。	
	○	○	○	○		Excelを使用して表計算機能ができるようになる。	
	○	○	○	○		PowerPointを使用してスライド・資料作成ができるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:30時間でマスター office2019 実教出版企画開発部						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、Windowsの基礎、入力速度チェック				入力練習・復習	
	2	Wordの基礎、文字入力、編集、保存				入力練習・復習	
	3	書式設定、画像、SmartArtグラフィック				入力練習・復習	
	4	表、ページ罫線、タブ				入力練習・復習	
	5	ワードアート、段組				入力練習・復習	
	6	Word復習テスト・他				入力練習・復習	
	7	Excelの基礎、文字・数値の入力、表作成				入力練習・復習	
	8	表作成、四則演算、関数(SUM,AVERAGE,MAX,MIN)				入力練習・復習	
	9	絶対参照、関数(COUNT,COUNTA,IF)				入力練習・復習	
	10	データ分析(並べ替え、オートフィルタ)、グラフ作成				入力練習・復習	
	11	Excel復習テスト・他				入力練習・復習	
	12	キーボード入力の記録会、PowerPointの基礎				入力練習・復習	
	13	スライドの作成、スライドの書式設定				入力練習・復習	
	14	画像等の挿入、画面切替え、アニメーション、リハーサル、資料の作成				入力練習・復習	
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記/実技)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○	◎	○		60%
小テスト	○	○	◎	○		40%	
履修上の注意							

科目名	医学英語						
科目名(英)	Medical English						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	リトルアメリカ		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 1年						
授業概要	1. 英語の発話を最大限行う 2. 語彙と文章表現を反復練習し習得する						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				英語での会話が自信を持ってテンポよくできる	
	○	○				医療用語を織り交ぜた語彙と文法の正しい使い方を身につける	
	○	○				日常会話の基盤を作りながら医療現場で使える英語を習得する	
	○	○		○		実際に医療現場で想定される会話をロールプレイ式で実施し、体感として身につける	
テキスト・教材 参考図書	教科書: Challenge Book #4, Medical English Booklet						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	Warm Up 1, Self Intro 1, Q&A 1, Vocab 1, CB P.7, Dialog 1				反復練習、英訳課題、構文応用	
	2	Warm Up 1, Self Intro 2, Q&A 1, Vocab 1, CB P.7, Dialog 1				反復練習、英訳課題、構文応用	
	3	Warm Up 2, Self Intro 2, Q&A 1&2, Vocab 2, CB P.8, Dialog 2				反復練習、英訳課題、構文応用	
	4	Warm Up 2, Self Intro 2, Q&A 1&2, Vocab 2, CB P.8, Dialog 2				反復練習、英訳課題、構文応用	
	5	Warm Up 3, Self Intro 2, Q&A 2&3, Vocab 3, CB P.9, Dialog 3				反復練習、英訳課題、構文応用	
	6	Warm Up 3, Self Intro 2, Q&A 2&3, Vocab 3, CB P.9, Dialog 3				反復練習、英訳課題、構文応用	
	7	Warm Up 4, Self Intro 2, Q&A 3&4, Vocab 4, CB P.10, Dialog 4				反復練習、英訳課題、構文応用	
	8	Warm Up 4, Self Intro 3, Q&A 3&4, Vocab 4, CB P.10, Dialog 4				反復練習、英訳課題、構文応用	
	9	Warm Up 5, Self Intro 3, Q&A 4&5, Vocab 5, CB P.11, Dialog 5				反復練習、英訳課題、構文応用	
	10	Warm Up 5, Self Intro 3, Q&A 4&5 Vocab 5, CB P.11, Dialog 5				反復練習、英訳課題、構文応用	
	11	Warm Up 6, Self Intro 3, Q&A 5&6, Vocab 6, CB P.12, Dialog 6				反復練習、英訳課題、構文応用	
	12	Warm Up 6, Self Intro 3, Q&A 5&6, Vocab 6, CB P.12, Dialog 6				反復練習、英訳課題、構文応用	
	13	Warm Up 7, Self Intro 3, Q&A 6&7, Vocab 7, CB P.13, Dialog 7				反復練習、英訳課題、構文応用	
	14	Warm Up 7, Self Intro 3, Q&A 6&7, Vocab 7, CB P.13, Dialog 7				反復練習、英訳課題、構文応用	
	15	Warm Up 8, Self Intro 3, Q&A 7&8, Vocab 8, CB P.14, Dialog 8				反復練習、英訳課題、構文応用	
評価方法	(1)授業でChallenge Bookとダイアログの発表 (2)各アクティビティの積極的な取り組み (3)定期試験(筆記)を実施 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
小テスト		◎		◎		50%	
履修上の注意	毎回、必ず復習をしてきてください。						

科目名	解剖学						
科目名(英)	Anatomy						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	小川 皓一		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 1年						
授業概要	解剖学の学習に必要な用語を学ぶ。人体を構成する細胞・組織の構造と機能を学習する。運動器系(骨格、関節・靭帯)の構造を学習する。循環器系の構造を学習する。内臓(呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系)の構造・機能を学習する。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				解剖学用語、細胞の構造、組織の構造を理解する。	
		○				骨・関節に関する構造、部位の名称、特徴を理解する。	
		○				骨格筋の構造、頭部・顔面・体幹・上肢・下肢の筋の位置や名称を理解する。	
		○				循環器系の学習に必要な知識を習得する。	
	○				呼吸器系・消化器系・泌尿器系、生殖器系、内分泌系の学習に必要な知識を習得する。		
テキスト・教材 参考図書	教科書:1. PT・OT・STのための解剖学。 渡辺正仁 監修。 廣川書店 参考文献:1. あたらしい人体解剖アトラス。 佐藤達夫 訳。 メディカル・サイエンス・インターナショナル社 2. ネット解剖学アトラス(第6版)。 相磯貞和 訳。 南江堂 3. 日本人体解剖学 上・下巻(第19版) 金子丑之助 原著。 南山堂						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	解剖学総論(解剖学とは、解剖学用語)、細胞学				テキストまたは資料にて復習	
	2	組織学(上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織)				テキストまたは資料にて復習	
	3	骨学Ⅰ(総論、頭蓋・顔面の骨)				テキストまたは資料にて復習	
	4	骨学Ⅱ(体幹の骨、四肢の骨)				テキストまたは資料にて復習	
	5	循環器系Ⅰ(心臓の構造)				テキストまたは資料にて復習	
	6	循環器系Ⅱ(血管の構造、動脈系)				テキストまたは資料にて復習	
	7	循環器系Ⅲ(静脈系)				テキストまたは資料にて復習	
	8	循環器系Ⅳ(胎生期の循環、リンパ系)				テキストまたは資料にて復習	
	9	呼吸器系Ⅰ(鼻腔・咽頭・喉頭の構造)				テキストまたは資料にて復習	
	10	呼吸器系Ⅱ(肺の構造)				テキストまたは資料にて復習	
	11	消化器系Ⅰ(口腔・食道・胃・小腸・大腸の構造)				テキストまたは資料にて復習	
	12	消化器系Ⅱ(膵臓・胆嚢・肝臓の構造)				テキストまたは資料にて復習	
	13	泌尿器系(腎臓・尿管・膀胱の構造)				テキストまたは資料にて復習	
	14	生殖器系(男性・女性生殖器の構造)、発生学				テキストまたは資料にて復習	
15	内分泌系(内分泌腺の構造と機能について)				テキストまたは資料にて復習		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	解剖学（内部教員）						
科目名(英)	Anatomy						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	峰岡哲哉		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 1年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者として必要な解剖学総論、組織学を学ぶ。 ・臓器の構造、人体における位置関係を学び、諸器官の機能と関連付けて理解する。 						
授業形式	講義	○	演習:	△	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				基本的な解剖学用語を使用することができる。	
	○	○				細胞の基本構造を述べるることができる。	
	○	○				発生、組織の種類について理解し、国家試験問題に解答できる。	
	○	○				呼吸循環の解剖的構造を理解し、国家試験問題で解答できる。	
	○	○				主要な臓器の解剖学的構造を理解し、国家試験問題で解答できる。	
テキスト・教材 参考図書	解剖学トレーニングノート PT OTのための解剖学						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション 体表区分と身体解剖の基本的用語の理解				テキストと理解トレーニングノートでの学習	
	2	骨格構造の理解 身体方向と骨の用語 身体運動方向の用語				テキストと理解トレーニングノートでの学習	
	3	運動面と軸 運動方向に関する医学英語 各関節運動 骨の理解				テキストと理解トレーニングノートでの学習	
	4	骨の各論 上肢の骨				テキストと理解トレーニングノートでの学習	
	5	骨の各論				テキストと理解トレーニングノートでの学習	
	6	体表解剖 ランドマークの確認				テキストと理解トレーニングノートでの学習	
	7	筋の構造と収縮形態				テキストと理解トレーニングノートでの学習	
	8	循環 心臓の解剖				テキストと理解トレーニングノートでの学習	
	9	動脈系の解剖				テキストと理解トレーニングノートでの学習	
	10	静脈 リンパ系の解剖				テキストと理解トレーニングノートでの学習	
	11	呼吸器系の解剖				テキストと理解トレーニングノートでの学習	
	12	呼吸循環のまとめ				テキストと理解トレーニングノートでの学習	
	13	消化器官の構造とつながりの理解				テキストと理解トレーニングノートでの学習	
	14	泌尿器系の解剖				テキストと理解トレーニングノートでの学習	
	15	確認テスト ここまでの理解の確認				テキストと理解トレーニングノートでの学習	
評価方法	毎回進行内容をトレーニングノートで確認を行い、その内容を課題として提出を行う。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題の提出	◎	◎				50%
	小テストでの評価	◎	◎				50%
履修上の注意	身体解剖において、構造のイメージと名称の理解を自己学習において進めておくこと。						

科目名	生理学 I						
科目名(英)	Physiology						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	坂口 博信		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 1年						
授業概要	人体についての基礎知識は医療に携わるひとには欠かせない。生理学は、人体の生命現象の仕組み(機能)を理解するための学問であり、医学の中で、最初に学ばねばならない基礎中の基礎となる科目である。本講義では、人体の各器官がどのように働き、生体内外の変化に対してどう反応して生体の恒常性を維持しているかを学習する。さらに、人体の正常な機能の知識に基づいて、病気のなりたちを理解していく。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				人体の各器官がどのように働き、生体内外の変化に対してどう反応して生体の恒常性を維持しているかを説明できる	
	○	○				人体の正常な機能の知識に基づいて、病気のなりたちを説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書: 標準理学療法学・作業療法学～専門基礎分野～「生理学」 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	生理学序論、細胞と内部環境			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	2	神経系(活動電位、シナプス、自律神経)			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	3	血液			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	4	免疫			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	5	循環器(心臓)			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	6	循環器(血圧)			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	7	呼吸器			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	8	呼吸器			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	9	消化器			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	10	消化器			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	11	腎・泌尿器			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	12	腎・泌尿器(酸塩基平衡)			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	13	内分泌			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	14	生殖			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
	15	まとめ			授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	生理学 I (内部教員)						
科目名(英)	Physiology						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	木村 孝		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院に勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 1年						
授業概要	人体についての基礎知識は医療に携わるひとには欠かせない。生理学は、人体の生命現象の仕組み(機能)を理解するための学問であり、医学の中で、最初に学ばねばならない基礎中の基礎となる科目である。本講義では、人体の各器官がどのように働き、生体内外の変化に対してどう反応して生体の恒常性を維持しているかを学習する。さらに、人体の正常な機能の知識に基づいて、病気のなりたちを理解していく。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				人体の各器官がどのように働き、生体内外の変化に対してどう反応して生体の恒常性を維持しているかを説明できる	
	○	○				人体の正常な機能の知識に基づいて、病気のなりたちを説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:標準理学療法学・作業療法学～専門基礎分野～「生理学」 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンション・身体の基本概念と細胞の構造・活動について1			該当部分の教科書を予習しておく		
	2	神経伝達について			該当部分の教科書を予習しておく。前回の講義内容を復習しておく。		
	3	筋構造について			該当部分の教科書を予習しておく。前回の講義内容を復習しておく。		
	4	筋収縮と滑走説について			該当部分の教科書を予習しておく。前回の講義内容を復習しておく。		
	5	筋収縮とIa抑制について			該当部分の教科書を予習しておく。前回の講義内容を復習しておく。		
	6	筋収縮と伸張反射について			該当部分の教科書を予習しておく。前回の講義内容を復習しておく。		
	7	筋収縮と伸張反射について			該当部分の教科書を予習しておく。前回の講義内容を復習しておく。		
	8	中間テスト					
	9	心臓の構造について			該当部分の教科書を予習しておく。前回の講義内容を復習しておく。		
	10	心臓の作用について			該当部分の教科書を予習しておく。前回の講義内容を復習しておく。		
	11	心電図について			該当部分の教科書を予習しておく。前回の講義内容を復習しておく。		
	12	異常心電図について			該当部分の教科書を予習しておく。前回の講義内容を復習しておく。		
	13	肺の構造について			該当部分の教科書を予習しておく。前回の講義内容を復習しておく。		
	14	ガス交換と換気について			該当部分の教科書を予習しておく。前回の講義内容を復習しておく。		
15	総復習						
評価方法	(1)小テストを (2)レポート課題 (3)中間・定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	中間・定期試験	◎	◎				70%
	小テスト	◎	◎				15%
	宿題・レポート	◎	◎				15%
履修上の注意							

科目名	人間発達学						
科目名(英)	Human Development						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	刀坂 昌輝		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 1年						
授業概要	新生児～12か月の人間の認知や運動発達を通して、発達の不思議や人間の行動の成り立ちについて学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				人間発達とは何か。人と動物の違いについて説明できる。	
	○	○				感覚・知覚・認知の違いについて説明できる。	
	○	○				言葉の発達、心の理論について説明できる。	
	○	○				原始反射、姿勢反射とは何か、説明できる。	
	○	○				0か月～12か月の粗大運動の発達について大まかに説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	細田多穂・田原弘幸他 : 小児理学療法学テキスト第3版 . 南江堂.2010						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業オリエンテーション・発達の概念 人と動物の違い			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	2	発達概念 発達とは？発達理論について			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	3	感覚・知覚・認知の発達 感覚って何だろう？その始まり			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	4	言語の発達 言語始まり 共同注視とは			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	5	心の発達 心の理論とは何か			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	6	原始反射と姿勢反射① 原始反射の種類			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	7	原始反射と姿勢反射② 姿勢反射とは			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	8	中間テスト					
	9	粗大運動の発達① 胎児期・新生児期の発達			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	10	粗大運動の発達② 3か月までの発達			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	11	粗大運動の発達③ 6か月までの発達			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	12	粗大運動の発達④ 9か月までの発達			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	13	粗大運動の発達⑤ 12か月までの発達			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	14	発達理論(エリクソン・ピアジェ・フロイト)			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
15	授業総復習			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる			
評価方法	(1)授業の中で中間テストを実施する。(2)課題を数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				65%
	課題・レポート	○	○				15%
	中間テスト	◎	◎				20%
履修上の注意							

科目名	リハビリテーション概論						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	山下 慶三		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 1年						
授業概要	リハビリテーションという言葉は、一般社会でもよく使われるようになってきている。通常、障害に対する機能回復のための治療・訓練として用いられてきている。しかし、この解釈は、リハビリテーションの中の極めて狭い領域となっている。リハビリテーションにおける理念・背景をリハビリテーションの特徴を含め紹介する。また近年のリハビリテーションの展開についても紹介していく。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				本校の育成人材像を把握し、カリキュラムの構成、学習の流れを理解する	
	○	○		○		リハビリテーションの定義と歴史を含んだ語源を説明できる	
	○	○				リハビリテーションの分野と関わる期の特徴と理学療法士としての役割を説明できる	
	○	○		○		ICFについてICIDHと比較して特徴と相違について説明できる	
	○	○				他職種連携の意味と重要性をそれぞれの職種の役割を踏まえて説明できる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:1)リハビリテーションの思想 第2版 人間復権の医療を求めて 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション・本校のカリキュラムポリシー			学生便覧を使用します。		
	2	リハビリテーション医学の歴史的背景、語源および基礎			教科書を読み理解を深めてください。		
	3	リハビリテーション医学の目的、対象、方法・障害の理解			教科書を読み理解を深めてください。		
	4	予防医学の分類・障害の捉え方、ICIDHとICFについて			配布資料の内容について、教科書を読みなおし理解を深めてください。		
	5	障害の捉え方:ICIDH			配布資料の内容について、教科書を読みなおし理解を深めてください。		
	6	障害の捉え方:ICF			配布資料の内容について、教科書を読みなおし理解を深めてください。		
	7	リハビリテーションの分野 ~ 例 骨関節障害領域 ~			資料内容について、読み返し用語については調べてください。		
	8	廃用症候群			資料内容について、読み返し用語については調べてください。		
	9	リハビリテーションの関わるステージと役割			資料内容について、読み返し用語については調べてください。		
	10	多職種連携①:作業療法士・言語聴覚士 他			資料内容について、読み返し用語については調べてください。		
	11	多職種連携②:医師・看護師 他			資料内容について、読み返し用語については調べてください。		
	12	リハビリテーション医学 まとめ ①			資料内容について、読み返し用語については調べてください。		
	13	リハビリテーション医学 まとめ ②			資料内容について、読み返し用語については調べてください。		
	14	世界のリハビリテーションの現状 ~特別講義~			講義後の感想をレポートとして提出予定です。		
15	これから理学療法士を目指すにあたって大事なこと			これまでの学習内容のまとめとして再度復習を行います。配布資料を持参してください。			
評価方法	(1)定期試験(筆記試験)を実施する。(2)レポートを数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				70%
	レポート	○			○		30%
履修上の注意							

科目名	理学療法学概論						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	木村 孝		
実施年度	2022年度□	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 1年						
授業概要	理学療法概念・定義・歴史及び具体的実践を学び医療福祉の中で理学療法の位置づけを知る。講義終了後、リハビリテーション活動に参画する一専門職としての役割を説明できることを目指す。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				理学療法の理念、歴史について説明ができる	
	○	○				理学療法士が関わる領域や時期について説明ができる	
	○	○				主な理学療法の領域における専門性について説明ができる	
	○	○				理学療法士に求められる資質や適性について説明ができる	
テキスト・教材 参考図書	PTOT ビジュアルテキスト理学療法概論 課題動画を使ってエッセンスを学びとる						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション					
	2	理学療法概念と総論(各相について)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	3	関係法規・諸制度				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	4	ICFについて				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	5	理学療法の流れ				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	6	リスクマネジメントについて				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	7	EBMとNBM				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	8	分野別の理学療法士の実際(整形分野)				分野に関する内容について、事前に調べわからない用語等について調べておくこと	
	9	分野別の理学療法士の実際(中枢分野)				分野に関する内容について、事前に調べわからない用語等について調べておくこと	
	10	分野別の理学療法士の実際(内部分野)				分野に関する内容について、事前に調べわからない用語等について調べておくこと	
	11	分野別の理学療法士の実際(小児分野)				分野に関する内容について、事前に調べわからない用語等について調べておくこと	
	12	分野別の理学療法士の実際(地域分野)				分野に関する内容について、事前に調べわからない用語等について調べておくこと	
	13	分野別の理学療法士の実際(物理療法分野)				分野に関する内容について、事前に調べわからない用語等について調べておくこと	
	14	分野別の理学療法士の実際(国際分野)				分野に関する内容について、事前に調べわからない用語等について調べておくこと	
	15	総復習・テーマ:理学療法士に必要なことは				教科書の該当範囲を復習し、わからない用語等は調べておくこと	
評価方法	(1)課題 (2)レポートを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート	◎	◎				80%
	課題	◎	◎		○		20%
履修上の注意	分野別については、日程の変更もあります。						